

減災のための「やさしい日本語」研究会

減災のための「やさしい日本語」研究会は、平成14年4月にFMアップルウェーブ（産）と弘前大学（学）、弘前市役所（官）、キャスト（NPO）が一体となって「弘前市で災害が起きたときに、必要な情報をわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか」を考えるために立ち上げられました。

それは、過去にこんなことがあったためです。阪神・淡路大震災の被災者には日本人だけでなく外国人も多数いました。彼らは日本語も英語も十分に理解できなかったため、避難情報や救援情報を得ることができず、二重に被災してしまいました。同じことは去年の10月にも新潟県で起きています。長岡市に住む日系ブラジル人の多くが、適切な情報を得られず、二重に被災しています。

内なる国際化に伴い、いま、コミュニティにはさまざまな国からの外国籍の皆さんがたくさん住んでいます。弘前市もまた同じです。たとえば神戸や新潟でのような大きな地震が起きたとして、次のような案内がラジオから聞こえたり、テレビの字幕スーパーで流すことができれば、外国人被災者であっても安心して避難できるはずと考えました。

あなたの家やアパートは、大丈夫ですか。もし、危ないと思ったら、近くの学校、公園など、広いところへ行ってください。

津波、高い波について、お知らせします。**市、**市の海に、津波が、来ます。津波は、とても高い波です。海の近くは、危ないです。すぐに、海から遠い、高い、ところへ、行ってください。

研究会の目的は、弘前市を減災モデル都市（さまざまな母語を話す外国人を含めた地域住民や観光客の安全を配慮した都市）として位置付けることにあります。情報から隔絶される発災直後であっても、外国人被災者に適切な情報を的確に伝えられるコミュニティを作ろうというものです。弘前が、被災者の心理的負担を軽減できる減災モデル都市となることで、日本中の行政機関やコミュニティFM局に、災害時の情報伝達はやさしい日本語によるものが有効であることを提案していこうとしています。

やさしい日本語とは何か

○たとえば英語であってさえ、発災直後の情報を翻訳して流すには時間がかかります。

まして被災地に居住しているすべての外国人の母語に翻訳して伝えることは不可能です。

☆発災時の大切な情報が伝わらず、被災者が二重に被災してしまうことを防ぐために作られた表現のことで。

○日本語に不慣れな外国人が聞いても理解できる表現で作ってあります。

○日本に住んでいて、友人との待ち合わせ（時間や場所を決める）をしたり、自分の欲しいものを説明して買い物ができる程度の日本語能力（日本語能力3級程度）の人たちが理解できる表現にしています。

○文字でいうと、小学校の2、3年生で習うくらいの、読んだり、書いたりするのが難しい漢字と平仮名および片仮名による表現です。

○災害が起きたときのラジオや有線放送、テレビの字幕スーパー、掲示物などに使うことを目的としています。

☆案文は、阪神・淡路大震災、宮城県北地震、新潟県中越地震のときに、実際に被災者へ伝えられた情報に基づいています。

○つぎの案文は金融特別措置による営業案内（生活情報）です。ラジオでの呼びかけを想定しています。

普通の日本語

銀行開設のお知らせが入りました。* *市では* *銀行富田支店が臨時営業を開始しました。窓口の開設時間は午前9時から午後5時までで、キャッシュカードを紛失しても外国人登録証があれば預金をおろせるということです。

やさしい日本語

お金を□引き出すことが□できます■

やっている□銀行は□* *銀行の□富田支店です■

やっている□時間は□今日の□午前□9時から□午後□5時までです■

銀行の□カードを□なくした人は□外国人□登録証を□持って□銀行へ□

行ってください■

お金を□引き出すことができます■

（文中の□は約1秒の、■は約2秒のポーズをおいて読むことを意味しています）

やさしい日本語の特徴

- 1) 文の構造を簡単にし、文の長さを短くしています。おおよそ、35字以内です
- 2) キーワードにはなるべくわかりやすい言葉を使用し、文の始めの方に持っていくようにします。
- 3) 基本的な語（約2000語：外国人のための日本語能力でいうと3級程度）だけを使用しています。

※「火災が発生しました」はわからないが、「火事がおきました」はわかる程度。

ただし、震災時、とくに理解の難しい重要な語（津波、震度、余震、避難所等）には説明を加えて使用しています

4) カタカナ外来語の使用をできるだけ避けています。

ダイヤル……………言語とは意味が違うので通じないためです

ライフライン……言語とは意味が違うので誤解を招くためです

デマ……………原語では行われぬ省略なので意味が通じないためです

5) ことばのまとまりを認識しやすいよう、短いポーズを多く用いています。

6) 連用中止や連体修飾節による複文は避ける。

7) 否定の表現や程度を表す副詞は使用を最小限にします。また、二重否定の表現も避けます。

言い換え例

普通の日本語	やさしい日本語
給水車	水を配る車
迂回する	違う道に行く
カーラジオ	車についているラジオ
津波	津波＝高い波
デマ	うその話
避難所	避難所＝逃げるところ
行方不明	どこにいるかわからない人
渋滞する	混んでいる
貴重品	大切なもの

放送用案文の具体例

(1) これからも、大きい地震が続くかもしれません	(0～2分)
(2) 地震は止まりました。落ち着いてください	(2～5分)
(3) 電話は混んでいます。できるだけ電話は使わないでください	(20～60分)
(4) あなたの国の大使館に、あなたが大丈夫かどうか教えてください	(60～180分)
(5) ラジオで外国語のニュースがあります	(60～180分)
(6) ポルトガル語はFMアップルウェーブで朝8時から8時5分までです	(60～180分)

() 内に示したものは、発災から計測して、その時間内に伝えるべきことを意味しています。

○放送用に用意した案文は 560 文あります。マニュアルでは、発災直後から始まり、180 分後までの案文を時間軸に沿って配列しています。

○読む速さは1分あたり 200～250 拍としました。通常のニュース文 (NHK) を読むときの速さは 440～490 拍ですから、約 2 倍の時間をかけて読むことにしています。

やさしい日本語を使った掲示物

○阪神・淡路大震災だけでなく、宮城県北地震や新潟県中越地震のときも、被災者が日常を取り戻すために頼ったのは紙による伝達方法でした。

○原始的ですが、日常の情報を広報するには掲示物の有効性はとても高いものがあります。

とくに外国人にとって、聞き逃すということのない効果は大きいといえます。

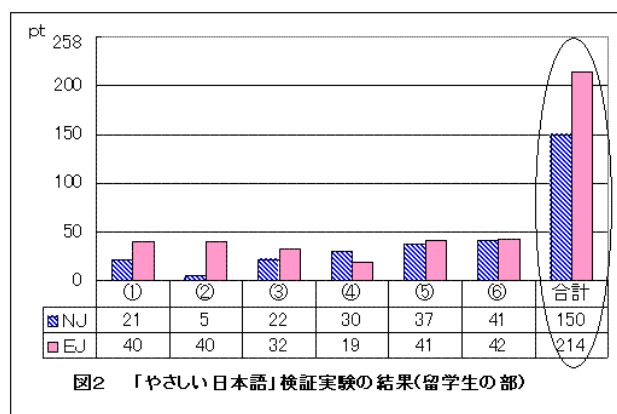
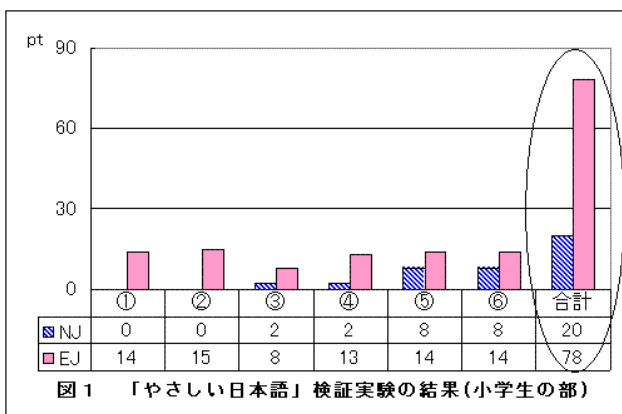
○そこで我々は、多数の掲示物が氾濫する中で、外国人の目を引くもの、読んでみようという気持ちを起こさせる情報の書き方と表現について研究を進めてきました。



- (1) 見出しだけは、できるだけ複数の言語で書く。
- (2) 漢字にはふりがなをつける。
- (3) 文字は大きく書く。ふりがなもできるだけ大きくする。行間も広くとる。
- (4) ローマ字はできるだけ使わない。
- (5) カタカナ外来語はできるだけ使わない。
- (6) できるだけ内容に関連する絵や地図を付ける。
- (7) 1つの文はできるだけ短くする。
- (8) 掲示物を作成した機関や団体の名前を書き込む。
- (9) 作成年月日は必ず書く。
できれば掲示年月日や掲示時間も書くことが望ましい。

やさしい日本語は外国人に有効なのか

【検証デモンストレーションの結果 (2005.10/23 in ひろさき)】



①～③は聴解実験で、スピーカーから流れる指示文を聞いて行動してもらいました。

④～⑥は読解実験で、紙に書かれた指示文を見て行動してもらいました。

ピンク：「やさしい日本語」で行動指示を行ったグループ

青斜線：普通の日本語（通常文）で行動指示を行ったグループ

今回の検証実験で、やさしい日本語は普通の日本語に比べ、小学校低学年で約4倍、外国人留学生では約1.5倍の正答率でした。次の図を見てください。以下の図は、やさしい日本語の有効性を検証する実験の結果をグラフで表したものです。図1は小学校低学年、図2は外国人留学生での結果を示しています。それぞれの合計の最大値は小学生が90ポイント、留学生が258ポイントとなります。

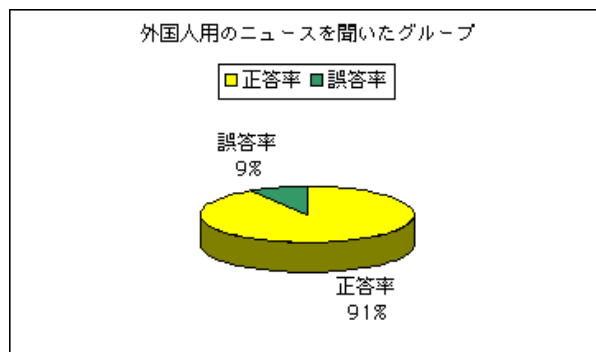
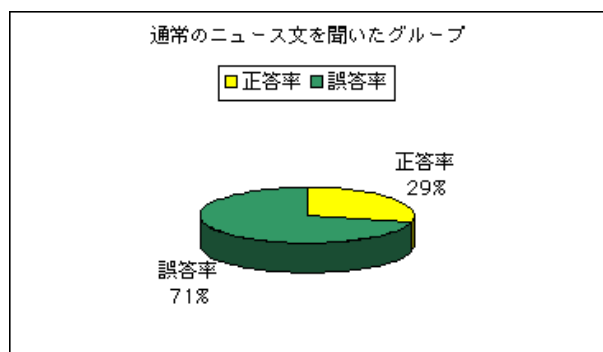
留学生実験風景

小学生実験説明風景



【過去の検証から】

- 日本語での簡単な日常会話ができる程度（3級程度）の外国人が、やさしい日本語の表現を用いたニュースを聞いて①内容をどの程度理解できるか、②通常のニュースを聞いたときに比べて、理解率はどの程度高まるかを明らかにする聴解実験を行いました。
- 聴解実験用の文は、震災時に実際に放送されたNHKのニュース原稿Aと、やさしい日本語の表現に言い替えたほぼ同じ内容のニュース用案文Bです。
- 実験の結果、Aを聞いたグループの正答率は29.3%、Bを聞いたグループの正答率は90.7%でした。やさしい日本語によるニュース用案文は、日本語能力が3級程度の外国人にとって、非常に理解しやすい表現となっていました。
- ☆通常のNHKニュースを聞いたときよりも理解率が著しく高くなっていますから、災害時の情報を円滑に伝える上で、やさしい日本語による情報の伝達はとても有効ということになります。



産学官 NPO が一緒になった取り組み

- 外国人へのやさしい日本語での情報の伝達は、的確な日本語で情報が伝えられるため、災害下において、外国人だけでなく、コミュニティで生活するさまざまな住民にとっても有効と考えました。外国人用のやさしい日本語を応用し、今まで情報から取り残されがちだった地域住民へのわかりやすい情報伝達的手段だと考えました。
- 近い将来の高齢化社会や観光や仕事で多くの外国人を受け入れるようになった現在の弘前を考えると、やさしい日本語の表現は弘前市にとって日常から用意しておくべきものと考えられます。
- 日常から用意しておくとは、生活情報や行政情報などを「やさしい日本語」でも伝えられる社会システムを構築しておきたいというものです。

書き言葉の場合は、通常文と“やさしい日本語”文を併記できるので災害時要支援者(いわゆる情報弱者)とそうでない人の両方に通用するが、話し言葉(聴き言葉)の場合は通常文を読んだ後に、“やさしい日本語”文を読まないといけなく、タイムラグが生じるので“やさしい日本語”を平常時から地域住民に広く認知させておく必要がある。

そのためには本来情報伝達手段の一つとして“やさしい日本語”があり、その一つの応用例として緊急時(災害時)の“やさしい日本語”があるという観点から、行政情報や生活情報などをリフレットやFMラジオ放送で汎用しておく必要がある。

☆行政の防災対策はハード面が先行し、時系列化した情報の内容や伝え方といったソフト面の対策が未整備となりがちです。まちづくりの原点は、「市民生活の安全を確保する」ことにあります。

弘前市は、平成12年度の弘前市総合計画で「安全な市民生活を確保するための施策」を掲げました。私たちは、産学官 NPO との協働により「やさしい日本語」を用いた情報の伝達をコミュニティの中に根付かせていきたいと考えています。



「やさしい日本語」を使った案内標識

